

3

女性の人権／男女共同参画

一人の人格として認め合い、高め合おう

1 対象

中学生

2 ねらい

自分の家庭や生活を振り返り、現在の生活が多くの人々によって支えられていることや、男女がお互いに理解し協力し合うことの大切さに目を向け、男女が対等な社会の構成員として活躍するための基盤として家庭の役割の重要性について認識できるようにする。

3 準備するもの

○ワークシート

4 解説

「男女共同参画社会」の実現のためには、一人ひとりの生き方や考え方を尊重し合い、お互いに協力し合うことが大切である。しかし、解消されつつあるとはいえ、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識はいまだに残り、このことが社会の対等な構成員として女性の経済的、社会的な自立を妨げている一つの要因と考えることができる。「男女共同参画社会」の実現のためには、男女が互いに独立した一人の人格として認め合い、高め合うように指導していくことが大切である。思春期を迎えた中学生の時期は、家族の一員としての自覚が十分育っておらず、保護者に対する要求ばかりが高い生徒や協力し合うことができない生徒も見られる。そこで、役割演技（ロールプレイ）をとおして家庭での協力について考える資料と、中学生の作文の2つの資料をもとに、改めて自分の家庭や生活を振り返り、現在の生活が多くの人々によって支えられていることや、男女がお互いに理解し協力し合うことの大切さに目を向け、男女が対等な社会の構成員として活躍するための基盤としての家庭の役割の重要性について考え、認識できるようにしたい。

5 進め方（展開例） 50分

| 時間 | 学習の流れ（活動・内容） | 留意事項 | 資料など |
|-----------|---|---|------|
| 導入 10分 | <p>◆学習の確認（2分） 授業の流れや留意点の説明を聞く。</p> <p>◆アイスブレイキング（8分） 「協働模写」 ①グループで一人ずつ廊下に貼られた正解の絵を10秒間見て形を覚える。 ②全員見たら、声を出さずにコミュニケーションをとって絵を描く。（2分） ③声を出して、話し合いながら絵を完成させる。（2分） ④時間で区切り、グループの作品を黒板に貼り、②の苦労した点や、③のやりやすかった点などを発表する。 ⑤正解の絵を発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 授業の流れを簡単に説明する。 〔P4「学習を進めるにあたって」の内容〕を生徒に伝える。 4人程度のグループで行う。 <p>・まとめをする。</p> | |
| | <p>・「協力することの意味」、「話し合うことの大切さ」などを体験、実感する。</p> | | |

| | | | |
|-------------------|---|---|--|
| <p>展開 35分</p> | <p>◆アクティビティ（35分）</p> <p>「一人の人格として認め合い、高め合おう」</p> <p>①「昨日の夕方」何をしていたか、思い出し発表する。</p> <p>②「ある日の夕方」をグループごとにロールプレイをする。</p> <p>③役割分担の理由を発表する。</p> <p>発表の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おかえりなさい」というのは、外に働きに行っていない祖母だから。 ・「だれか片付け手伝って」というのはいつもお母さんだから。 <p>④ロールプレイをした感想を発表する。</p> <p>発表の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さん役のセリフが多く家事が忙しかった。 ・何も仕事をしていない人がいる。 <p>⑤資料 作文「父の洗濯」を読む。</p> <p>⑥自分たちのロールプレイと比較しながら次の点について考える。</p> <p>◎「人として平等である」ことについて、筆者はどのように考えているか。</p> <p>⑦家庭での男女平等を実現するために自分のできることを話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付する。 ・グループの人数に合わせて家族構成を決めて必ず一人一役は演じることや、時間があるようならセリフを付け加えてもよいことを伝える。 ・役割分担の例を事前に提示するなど、個人の家庭の状況（一人親家庭など）に配慮する。 <p>役割分担の例</p> <p>父・母・祖母・兄・自分など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考え方に添いながら、男女平等についての意識を啓発する。 ・固定的な性別役割分担意識にとらわれていないか投げかけ、見直せるよう助言する。 ・家族として役割を担うという考えに共感するよう工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・資料 |
| <p>まとめ 5分</p> | <p>◆まとめ（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの話を聞く。 <p>・ロールプレイをとおして、男女が互いに正しい理解を深め、協力することの大切さを実感する。</p> <p>・家族の一員としての自覚を持ち、積極的に家庭に関わっていることの大切さに気づく。</p> <p>・男女平等についての意識を啓発する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・男女が対等な社会の構成員として活躍するため、家庭での生活を見直す機会とする。 ・授業をとおして生徒から出された感想や記述をもとに、ねらいを押さえまとめる。 | |

<参考資料など>

「人権学習のための参加体験型学習プログラム集 第2集」 神奈川県教育委員会（平成27年2月）
「子ども一人ひとりを大切にす男女平等教育の推進のために」 神奈川県教育委員会（平成21年）
第38回全国中学生人権作文コンテスト神奈川県大会入賞作文「父の洗濯」 横浜地方法務局（平成30年）

一人の人格として認め合い、高め合おう

()年()組()番 名前_____

- 1 昨日の帰宅後、あなたは家で何をしていましたか。

- 2 役割演技（ロールプレイ）における役割分担と決めた理由

| 役割 | 理由 |
|----|----|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

- 3 役割演技（ロールプレイ）をした感想を書いてみましょう。

- 4 今日の学習をとおして、家庭での男女平等などを実現するために、自分のできることを書いてみましょう。

「ある日の夕方」

○次のセリフ文は、ある家族の夕方の会話です。グループの人と話し合いながら、セリフから登場人物を考え、役割演技（ロールプレイ）をしてみましょう。会話の続きを考えたり、セリフを付け加えても構いません。

| 登場人物 | セリフ | 役割分担 |
|-------------|--------------------------|------|
| | 「夕ご飯にしよう。」 | |
| | 「今日は何？」 | |
| | 「肉じゃがだよ。」 | |
| | 「えー？ また？」 | |
| | 「文句は言わないの。あなたも少しは手伝ったら。」 | |
| ＜ 夕 食 中 ＞ | | |
| | 「〇〇はまだ帰ってきてないの？」 | |
| | 「遅くなるって。最近いつも〇〇で遅いんだから。」 | |
| | 「学校からのプリントを出しなさい。」 | |
| | 「はい、来月授業参観だって？」 | |
| | 「ただいま。」 | |
| | 「おかえりなさい。」 | |
| | 「授業参観の日と、会社の会議と同じ日だ。」 | |
| | 「見に来てくれる？」 | |
| | (着替えたあとで)「ただいま、お腹減った。」 | |
| | 「はい、食べなさい。」 | |
| | 「いただきます。」 | |
| | 「今日は仕事が忙しかった。」 | |
| | 「ねえ、授業参観見に来られる？」 | |
| | 「しゃべってないで早く食べなさい。」 | |
| | 「授業参観は？」 | |
| | 「私が行こうか。」 | |
| ＜ 夕食が終わって ＞ | | |
| | 「だれか、片付け手伝って。」 | |
| | 「テレビ始まったから勘弁してよ。」 | |
| | 「洗濯物は？」 | |
| | 「さっきたんでおいたよ。」 | |
| | 「ありがとう。」 | |
| | 「お風呂わかしたよ。」 | |

第38回 全国中学生人権作文コンテスト 神奈川県大会（優秀賞）

「父の洗濯」

「試合のユニフォーム洗濯かごに入れておいて」

なかなか洗濯物を出さないわたしに、父は言います。父は、仕事から帰ると、まず洗濯物をたたみ、それから夕食をとります。どんなに疲れていても、夕食の前には必ず洗濯物をたたみます。父は、家族みんなの洗濯物をふんわりといいにおいに仕上げてくれます。干し方も上手です。週末になると、シーツや枕カバー、タオルケットなど大きなものもどんどん洗います。天気の良い週末の我が家のベランダは洗濯物だらけになります。風に揺れる洗濯物を眺めている父は、とても満足そうです。友だちにこの話をしたところ、わたしの周りでは、父親が洗濯をしている家はありませんでした。そのほかに、掃除やゴミ出しなどほとんど母親がやっていると言うではありませんか。これには、びっくりしました。

わたしの両親は、共働きです。父の分担は洗濯のほかにゴミの仕分けとゴミ出し、掃除、犬の世話です。母の分担は、わたしと姉のお弁当作りや食事、買い物、アイロンがけ、植物の世話です。もちろんほかにもっと仕事はあるでしょうが、主にこんな感じです。

なぜ、父が洗濯と掃除で、母が食事作りなのかと聞いてみました。食事作りは、母の方が得意で小さいころから、台所でいろいろなものを作らせてもらい、これからも新しい料理に挑戦したいからだそうです。確かに、毎日台所に立ち手際よく料理を作っています。週末になると普段できない時間のかかる手の込んだ料理をうれしそうに作っています。父は、子どものころから、母親の洗濯を手伝っていたから、自分が洗濯するのは自然なことだと言います。掃除に関して、自分の部屋は自分で掃除をしていたため、苦ではないと言います。また、父は家電が好きで、カタログを眺めては、新しい物を購入し、うれしそうに家中掃除機をかけていたりします。

両親の母親は、ともに専業主婦でした。わたしが、祖父母の家に遊びに行くと、祖母は、おいしい料理をたくさん作ってくれました。片付けも祖母でした。そして、掃除や洗濯するのはいつも祖母でした。両親はわたしが生まれる前からずっと働いていました。だから、自分たちがそれぞれの家庭で見てきたことがそのままでは、うまくいかないと考えたのだそうです。結婚をして二人で暮らし始める前に、家での仕事について、話し合っただけで決めたそうです。それは、「得意な人がする」「なるべく公平にする」というルールです。その後、兄が生まれ、姉が生まれ、わたしが生まれたそのたびに、話し合いを重ね、家での仕事を分担してきたそうです。

そんな両親の姿を見てきているため、わたしたちきょうだいは、家のことをできる人がやるのが当たり前だと思っています。もちろん、父が仕事で遅いときには、母が洗濯たくをします。反対に、母が仕事で遅いときは、父が食事を作ります。わたしたちきょうだいも、できるときは、それぞれが家のことをします。二人は、一度もけんかをしたことがなく、互いに尊重しています。

また、子育てにおいても、「男だから…」「女だから…」などと決して言いません。わたしは、兄とは八歳、姉とは五歳はなも離れていますが、小さいころから「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」ではなく、名前なで呼ぶようにと教えられてきました。「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」では、年上だからしっかりしなさい。妹だからとすることを聞かなくてはいけない。両親はこの言葉にそんなイメージいを持っていて、とても嫌いやだったそうです。たぶん、自分が子どものころ、きょうだい関係で理不尽な思いをたくさんしてきたのだと思います。だから、わたしも女だから、妹だからと嫌いやな思いはしたことはありません。

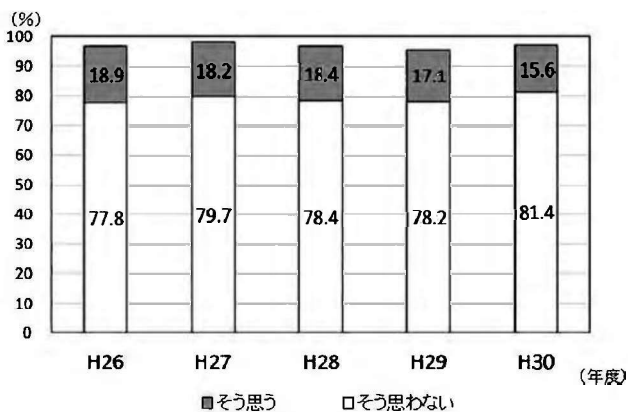
わたしは、十五年間、この家庭で過ごしてきて、男女の差異を感じたことはありません。しかし、祖父母の家や友だちの家では、そうではありませんでした。同じ一つの家いに暮らしているのに、女性ばかりに負担がかかっています。家での暮らしは、みんなのものです。みんなで分担して、みんなが笑顔で楽しく暮らせたら最高です。これから、高校、大学と進んでいったとき、わたしの周りでは、男女の差異はどうなっているのでしょうか。わたしは両親に、人は平等であると、普段の生活を通して教えられてきたのだと思います。

わたしの両親は、平等であるから毎日生き生きと暮らしているのだと思います。みんなが、平等な関係を保ち、個性を伸ばし、生き生きと暮らせる家庭や社会になってほしいです。そのためには、男女の性差にとらわれない考えを持ち続けていきたいと思っています。

2019年版神奈川県の男女共同参画年次報告書より

県の調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という意識に対して、《そう思わない》は81.4%となり、前年度より3.2ポイント増加しています。

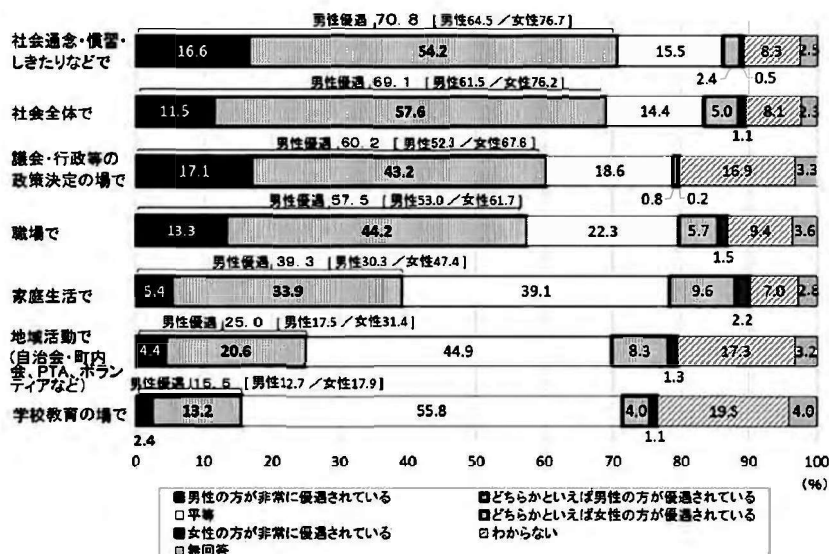
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという意識



県民ニーズ調査（基本）より作成

「社会通念・慣習・しきたりなどで」や「社会全体で」では、《男性の方が優遇されている》が7割と、《女性の方が優遇されている》を大きく上回っています。

男女の地位の平等感



神奈川県では、男女平等の実現に向けた様々な取組を着実に進めてきましたが、男女間の不平等を感じる人は依然として多く、なお一層の努力が必要となっています。女性と男性が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、学校においては「男だから」「女だから」と性別による固定観念をとりのぞき、男女平等観の形成を促進する教育・学習を充実させていくことが重要です。